

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

猫の手も借りたい手
植えの時代の「田植え
休み」。楽しくもあり、
つらくもあった1週間
は貴重な学びの場でも
あった。梅雨に入り、草

刈り本番だが草むらの
カエルから、まるで隠
れ家を無くさないでと
お願いされているよう
だ。確かに一昔前は田
の中からカエルの大合
唱が、賑やかに聞こえ
てきたのだが。人間社
会のゴミ処理が徹底し
て、エサがないのだろ
うかカラスや鳥などが
カエルを餌として日中
休みなく捕獲している
姿が目につく。まさに
生態系が心配になる。

人もいる。雑草なのか
野草なのか外来種か、
見る人にとってさまざ
まな感情を抱くのだろ
う。気持ちよく散歩し
ていると、何処でも出
合うクローバー。花と
言うほどの主張もない
白い花がいじらしい。

壊さないように守る話
め物のクッション材
だった。和名のシロツ
メクサに刻まれた「話
め」が役割の名残だと
言う。生活に馴染んだ
植物は、誰もが外来種
だからと駆除しようと
はしないのだろう。

う。日本人が、世界一
流のステージで大活躍
する嬉しきは格別だ。
東京オリンピック・パ
ラリンピックでの活躍
を期待して毎日のよう
に日本人の活躍が伝
わってくる。調査によ
れば、3〜6歳児の半
数以上がスマー
トフォンやタブ
レット端末を日
常的に使用して
いるそうだ。小さな手
でスマートフォンを常
に握っている姿より
「せめて子供の時ぐら
い」は、身体的機能を
生かした夢を抱きなが
らのチャレンジを期待
してしまつのは、時代
遅れの考えなのだろう

日々の営みを何気なく過ごす より、楽しく語り合おう

と新潟日報のコラム日
報妙さんが紹介した。
草むらで花冠を編んだ
記憶。幸せを呼ぶと信
じられた四つ葉探し。
懐かしい情景だ。ク
ローバーは19世紀半
ば、オランダから海を
越えて長崎まで、物を

メッセージで活躍する
エンゼルス大谷翔平選
手の情報が毎日気に
なってしまう。大リー
グ1年目は、アリーグ
新人王。今シーズンは
「3番・指名打者」と
して日本人初のサイク
ル安打も達成してしま

か。
来週から7月、本格
的な夏の到来だ。古く
から「う」の付くもの
を食べると病気になる
ないと言われてきた。
代表的なウナギに限ら
ず梅干しやうどんを食
べて、活気ある楽しい
時間を過ごしたいもの
だ。
(NPO法人信州地
域社会フォーラム理
事・白馬村森上)



雑食性のカラスの群れ、今が繁殖期で、昔から知能の高い動物として知られている